

## ■ 編集だより

### 編集後記

ガラパゴス化やパラダイス鎖国という言葉が耳にすることが多くなっています。どちらも日本人の内向きの姿勢を表現したものです。経済学用語は時に非常に社会を浮き彫りにする言葉を編み出すようです。グローバル化、ボーダレス社会などの言葉が声高に叫ばれ、国際化や外向きに頑張りましょうと鼓舞されているようですが、笛吹けど踊らずというのが今の若者なのです。1998年ごろから急激に自殺者が増え、年間3万人を超えています。現在もその状態が続いています。1997年までに比べると約8500人の急激な増加です。そのほとんどが男性の増加であり、女性はせいぜい2000人弱程度の増加なのです。その原因は何でしょうか。バブルの崩壊、企業収益の悪化が関係していることは事実だと思います。それに加えて、日本人個々の能力、特に個々の判断能力に依存する社会に変化してきたことが大きく影響しているものと考えています。日本人は今まで、自分ひとりで考え、判断したことが無かったのです。常に集団で考え、集団で行動し、年功序列を堅守し、終身雇用の社会で没個性的な生活をしてきたのです。何も最近だけの話ではありません。江戸時代から綿々と続いてきているのです。徳川家康がその基礎を作り出したのだと思います。260年続く鎖国と厳格な身分制度、一般の民は寺社仏閣による厳格な檀家制度という監視制度の元で生活を強いられてきたのです。日本という非常にユニークな文化を持つ非常にユニークな国に作り上げたという長所はあるでしょうが、前述のようないわゆる近代的自我の確立という面に関しては、全くの阻害因子として働いたのでしょう。第二次世界大戦やその後の奇跡の復興には、この集団主義が機能したのは明らかですが、1998年以降の状況には明らかにマイナス因子として働いているようです。現在をこのように見ていくと、存在的不安が色濃い時代といえます。神経症や神経症的うつ病がどんどん増えそうですね。実はアメリカも内向き傾向が顕著でパラダイス鎖国の状態らしいのですが、言語が決定的に異なるのです。国際標準語である英語を母国語とするアメリカ人と、日本語を母国語とする日本人が同じことをしてはいけないのです。

木下利彦